



日本

ハンザキ研究所 ニュース 2009(5):通巻 No.42

発行 2009年6月30日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel / Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

HP URL: <http://www.hanzaki.net>

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

.....

ハンザキ研をめぐるスター

シカ

シカも旨い。これは前号のイノシシと同じ出だした。シカの背肉の刺身は言う言葉が出ないほど旨い。それも、猟期外れの夏が最高なのである。もっとも、最近はE型肝炎の危険性が指摘されていてどちらを選ぶのかは本人の考え次第でもある。その一方で鹿の害獣化問題は深刻である。山野で増えすぎたシカは餌不足に陥り里地に出没することが多くなった。少し前までは雌ジカは狩猟禁止であったのが、今では狩猟期間以外でも有害鳥獣駆除の対象になっている。餌不足のシカたちは食えるものなら何でも言うことで日本の在来の植生を単調なものに変えようとしている。食わないのは有毒植物や外来植物だけと言う状況だ。駆除されたシカは、食用にまわされるのはごく一部だけで、大部分が焼却や埋められているそうである。もったいない話だ。



シカの頭骨(上は右角を交通事故で骨折、下はネットにからまっていた)

ハンザキ研の校庭には時々シカの足跡や糞が見られる。可憐なササユリも外来植物ですっかり土着しているハルジオン? ヒメジオン? などの蕾や花を食い散らしてしまう。外来植物を食ってくれるのはいいが、ヤマビルを落としていくのには閉口する。シカに吸い付いていたヒルは満腹になると放れて落ちる。校庭でもうっかりするとやられてしまう。校庭と山すその間にネットをセットして防ごうとしているが、知恵比べ・根競べの現状である。網を噛み破る山型の奥歯、上顎の前歯が無いのに硬いササの葉を食う。この冬にはササの葉の付け根まで食っている、追い詰められたシカたちの現状が思いやられた。



写真1 ササの葉の付け根までシカに食われる



写真2 第一展示室の整備状況



写真3 モリアオガエル卵塊の活け花？



写真4 舗装道路の真上の枝にモリアオ卵塊



写真5 ウツギノヒメハナバチの巣群



写真6 倉庫にあった児童の名つきの巣箱

求む！！あんこ淵への入居者

平成 18 年 4 月から滞在を続け 3 シーズンの連続で繁殖に成功していた黒主が姿を消しました。当ニュース 40 でお知らせしましたように、692 のオスが 4 月 12 日に巣穴へスムーズに入るのをモニターで確認しました。バトルがあったのか空き巣に入られてしまったのか、黒主は 4 月 30 日に 10 ㍍ほど上流のハンザキ橋下で確認できましたが、最近は新・主も黒主も全くチェックできません。少なくとも私の 3 食の食事時間はモニターで一日 3 ~ 5 時間は見えていますし、それ以外にも毎正時にはできるだけ覗きに行っていますので、今までは十分に黒主の行動を確認できていたのです。それが、さっぱり見えないのはもぬけの殻になっていると考えられます。出入り口もコケが周辺同様に繁茂していて動物の出入り行動の痕跡もありません。

黒主は、2004 年 7 月にハンザキ橋上流で合流する市川の支流の長野川で登録された個体です。元の棲家に戻っているのかもしれませんが、どこでどうしているのでしょうか？ 新・主の 692 は 2 ㍍ほど下流で 1998 年 3 月に登録しました。以後 10 年ほどは動かなかったのですが、昨年のおんこ淵の繁殖グループに参加し、繁殖期が終了した 10 月半ばまで近くをうろついていたことが確認できています。

黒主は、最初の測定値が全長 1000 ㍍、体重 7.30 ㍍あったのですが、その後年一回の測定では 4 回とも 990 ㍍で体重は減少の一途をたどり今年の 4 月には 5.1 ㍍まで減少しており、3 年連続での“主”の役目が重労働であったのかもしれませんが。追跡期間は 4 年 10 か月です。一方の新・主は 770 ㍍から 920 ㍍にまで成長し、10 年 7 か月の追跡期間になっています。11 年ほどで全長が 15 ㍍伸びており、これは大変にいい成長スピードです。なんとなく黒主が衰えつつあって、勢いのあるオスに追われたという構図が見えてきますが実際はどうなのでしょう？

5 月 2 日に 692 をあんこ淵で見たら、周辺も含めてあんこ淵には 7 月 13 日までの 70 日ほどの間ハンザキが全く確認できていません。この 4 年間にはこんなに長期に渡って不在なんていうことは無かったので気になります。5 月のカニ籠トラップ調査では 2 夜とも 10 個の籠にハンザキが入りませんでした。6 月はタイミングが悪く調査が出来ていません。夜間調査も実施していませんので、本当にハンザキがいないのかどうかは分からないところです。

9 月の産卵に向かってそろそろハンザキたちに動きが出てくると思いますが、昨年のように 15 個体が周辺から集合してくれると賑やかになるのですが、それまでに誰があんこ淵の主として納まるのだろうか楽しみでもあります。昨年はオス同士のバトルまでは動画で録画できました。6 月にアメリカでヘルベンダー(アメリカハンザキ)のシンポジウムがあり、Mr.T.Johnson が紹介してくれました。今年は、その続きで産卵受精行動に参加するスニーカー・オスたちの映像をキャッチしたいと考えています。

NPO 法人としての第一回通常総会

昨年は 4 月 19 日に設立総会を開き、8 月 20 日に兵庫県から正式に認証を受けました。組織化はなかなか大変なことであり、何とか初年度を乗り切ったの通常総会です。スタッフも馴れない作業を分担しつつやってきました。当初の目標であった会員 200 名は突破できましたが、2 年目の動向が気になるところです。大雑把な所ですが、会費・受託業務・助成金が主な財源となっており、それぞれ 200 万円前後の予算規模でした。水槽の増設や 24 時間監視カメラと録画装置、パワーポイントなど映像セット一式等など設備の方でも充実してきました。体育館兼講堂にも写真パネルなどの掲示と共に、校内に残されていた机と椅子 40 組を集めました。この春に閉校となった生野町の奥銀谷(おくがなや)小学校から近じか机などを頂いて来て、100 組をそろえる予定です。小学生の机ですから少々小さいかもしれませんが十分使えるものです。来年の総会の時に是非会員の皆様方には見ていただきたいものです。会費など有効に使いながらの整備状況を是非見に来てください。

総会の方は、新しい安福市議会議長や垣尾教育長の祝辞を頂き懇親会でも有意義な情報交換が出来たと思います。来年からは、総会とか懇談会だとか堅苦しく考えないで多くの皆様にも気軽にご参加いただければと思います。年に一度の機会ですからハンザキの顔を見に行くくらいの軽い気持ちで参加してください。

.....

NPO 法人 地域再生研究センターの第五回通常総会

NPO の総会続きでややこしいかも知れませんが、私はこちらの NPO 法人の理事になっており、理事長の門上さんはハンザキ研の理事を務めていただいています。地域おこしを専門に活動している法人で、ハンザキ研の立ち上げに際しては大変にお世話になっています。活動の重なる部分もあってお互いに協力し合っているのです。

総会は形だけのものですが、その後今年には「新たな公」による地域再生と言うタイトルでの講演が国交省近畿地方整備局建政部長の石塚さんによって行われました。“公”とは公務員とか公共事業などを思い浮かべますが、新たな公というとなかなか思う方が多いと思います。少し前から指定管理者制度が始められていますが、何もかも税金によって役人がやっいていくよりも、民間に任せようがより効率的で新しい考え方が期待できると思った所でしょう。

また、兵庫県立人と自然の博物館副館長の中瀬勲先生と兵庫県政策室長の畑正夫さんの二人による「地域づくり」の対談がありました。両先生共にコウノトリによる豊岡市の活性化の成功例を取り上げておられましたが、莫大な資金を注いだコウノトリ野生復帰事業に比べますと、日の目を見させることができているオオサンショウウオです。地域のマン・パワーに関しても限界集落と言われる地域ではなかなか難しい問題だと改めて感じました。

モリアオガエルのいい加減な産卵

モリアオガエルのいい加減な産卵については、当ニュース 5 や 9 で報告しました。今回も更に一体何を考えているのか、何も考えていないのではないかとも思える産卵生態をお知らせします。ハンザキ研のある場所から市川の流れて約 3 ㎞ 上流には関西電力の黒川ダムがあります。このダム湖は一周 16 ㎞ ほどありますがかつての市川源流を形成していた幾つかの谷筋が残っています。この一番奥に黒川地域の方がミズバショウを 10 年ほどかけて栽培していました。ところが、数百株全てが消えていたのです。ハンザキ研・事務局長の奥藤修さんが見回りに行って発見したそうです。(イノシシの仕業のようです)

その途中で、舗装道路の真上に張り出している枝にモリアオガエルが多数産卵しているのを見つけて連絡してくれました。現場に行くと確かに水気の無い道路の真上でした。雨がタイミングよく孵化にあわせて降ってくれば側溝に流れ込むことが出来るのかもかもしれません。しかし、そんなにタイミングよく行くことばかりはないでしょう。そのほかにも山水がしみだして落葉が腐れかかっているような場所にも数多くの卵塊が見られました。毎年のように繰り返されているのだから、それでもいいのかもしれませんが。到底無事にふかして水中にダイビングできそうも無い卵塊を、いくつかミズバショウ栽培の湿地に移しておきました。ここにはモリアオガエルが産卵していませんので、何か条件が悪いのかもかもしれません。でも、アスファルト舗装の道路に落ちるよりもいいのではないかと、今後の経過を見守って行きたいと思います。

.....

兵庫県指定天然記念物ウツギノヒメハナバチ

私は 10 年ほど前から兵庫県の文化財保護審議会委員を引き受けています。残念なことに県指定の天然記念物で動物は 2 種だけなのです。植物の方は各地に老木・大木が多く沢山の天然記念物があります。動物はと言うと淡路島の南端にある沼島のウミウ飛来地と朝来市山東町楽音寺のウツギノヒメハナバチ群生地だけなのです。国指定の特別天然記念物オオサンショウウオを長年追い続けている者としては動物の指定数増を、特にオオサンショウウオ関連で出来ないものかと思っています。

ところで、ウツギノヒメハナバチですが、お寺の境内で数多くの巣を作っているようで、まだ見たことは無いのですが、最近その巣の数が減少していると心配されています。巣の外観は掘り出した土粒を富士山のように地表に盛り上げるのです。穴を掘って巣にするには土の状態が重要な条件になるのでしょうか。この小さなハチの群生地がハンザキ研の近くに出現したのです。生野町黒川地区の日吉神社境内です。狭い境内ですが足の踏み場も無いくらいの墳丘が出来ており、小バチが飛び回り穴を掘ったり体に黄色い花粉をタックリ付けて帰ってきたりと急がしそうにしていました。いつまでもこの光景が続いてくれるといいのですが。

ハンザキ研日誌

2 0 0 9 年 6 月

- 2 日 兵庫県豊岡土木事務所・窪田所長他 2 名来所、出石川のハンザキについて
兵庫県養父土木事務所・山本主査来所、市川のハンザキについて
害獣脅し用のパチンコ購入、アオサギ・カラス・シカなどへの対策
- 3 日 アース建設・松本社長他 2 名来所、プール内のデザイン用の石について打ち合わせ
- 5 日 観察会用にモリアオガエルの卵塊の生け花(?)を活ける(写真 3 参照)
- 6 日 生野ダム湖に流入する宮の谷(通常は水がない)からハンザキ 1 個体救出
NPO 法人事務局会議(7 名)
モリアオガエル夜間産卵観察会実施、3 組 7 名参加
- 8 日 第一展示室(生物標本展示)の整備、立体展示に(写真 2 参照)
岸田川産のカマキリ(アユカケ)全長 15 ㍉ 1 尾受贈(アユ釣り中に釣れたもの)
- 11 日 ハンザキ月例健康診断、鳥取大・岡田純博士初参加
キッズ・ラボ会議、19 名参加
- 12 日 リバーフロント整備センターの助成金 ¥99,800 採用となる
- 13 日 鴨川ハンザキ 10 個体受け入れ、合計 33 個体となる
六和会(生野町 6 区の 47 歳 ~ 65 歳の会)でハンザキについて講演
- 16 日 神戸大学・久保田・伊藤両教授来所。クロスネットワーク協議会の件で
- 17 日 姫路市水産漁政課・清水邦一氏来所
- 18 日 20 貫(75 ㍉)の大イノシシのキバ、田住氏より受領
- 20 日 NPO 法人としての第一回総会、30 名出席
垣尾朝来市教育長。安福朝来市議会議長などの出席
- 25 日 黒川ダム湖畔でモリアオガエルのいい加減な産卵チェック
ウツギノヒメハナバチの大群生地チェック
旧・黒川小学校児童の残した小鳥の巣箱 18 取り付け
- 26 日 ミニ・アクアリウムの電気工事、松本電設
GS-285 調査終了(5 月 31 日 ~)
- 27 日 NPO 法人地域再生研究センターの第五回総会出席、ハンザキ研の整備状況報告
- 30 日 GS-286 調査開始(~7 月 28 日 ?)

.....

ハンザキ所長のツブヤ記録

新型インフルエンザ市内発生の影響で 1 か月延期になっていたが、NPO として第一回の通常総会が無事に終了した。馴れないことばかりでスタッフ一同手分けしながらの準備であり、翌日には疲れがドッと出た。来年からは、ハンザキ研のミニ・ホールで開催する方向で準備を進めたい。会員の皆様方にも一年に一回、ハンザキ研の整備状況を見ていただきたいと言う気持ちも強い。